

# 圓福寺報



圓福寺報 第七十三号  
 平成三十年七月十五日発行  
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺  
 千葉市稲毛区六川町三七五 Ⅱ (二五二) 九一八一  
<http://www.chiba-empukuji.com>  
 E-mail: oshou@chiba-empukuji.com

## 「把手」

### 共行

妙心太通□□

「はしゆきようこう」とお読みします。手を把とって共に行くということですが、お釈迦様と共に行けばお悟りに近づき、よき友と手を把れば人生が豊かに…。

檀信徒の皆さんと手を把とって共に行けば、火難から立ち上がり、伽藍も復興できるといふ太通老師の励ましのお言葉。

## 目次

ほとけさんの心シリーズ(その一)

「韋駄天さん」

第四十四回花園会ゴルフ

墓地の空きがあります。

三巡目第五回

四国あるき遍路のご案内

平成二十九年度花園会会計報告

「僧堂で何してる？」その四

——修行道場の生活

再建工事の様子と七月の工程表

お寺と和尚の記録抄

六川花園幼稚園 園だよりから

「当たり前なんてない！」

三巡目第四回

四国あるき遍路の旅

※裏表紙から始まります。

2	7	7	7	7	8	10	12	13	14
---	---	---	---	---	---	----	----	----	----

圓福寺報には、毎回、四国あるき遍路の写真集の抜粋を掲載しておりますが、今回は抜粋ではなく、歩いた方にお配りしている完全版を掲載いたしました。お読みいただいて、一緒に歩いた気持ちを味わってください。

ほとけさんの心シリーズ(その一)

# 「韋駄天さん」

伽藍再建に当たっては、ご本尊「お釈迦様」はじめ、お地藏さん、文殊菩薩など、たくさんの方と皆さんを新たにお祀りしなければなりません。

古来よりの縁起によりお祀りするほとけさんや、坐禅会には文殊菩薩が欠かせませんし、地藏盆ならお地藏さんというようにお寺の行事に欠かせないほとけさん、庫裡や典座(てんぞ)・東司(とうす)などを守護していただくほとけさんなど、それぞれにお祀りする意義や意味があります。

伽藍再建、新仏招来のこの機会に、そんな仏さんたちをご紹介しながら、そのお心に触れてみたいと思います、今号から何回かお話をさせていただきます。

第一回は、「韋駄天さん」です。

新しい庫裡の玄関を入って最初に目に飛び込んでくるのが、真正面に祀られている「韋駄天さん」だと思います。

## □□□身近な韋駄天さん

お寺に生まれた子なら、子どもの頃から「韋駄天さん」と親しみを込めてお呼びするのが当たり前だった気がします。庫裡の玄関は檀家さんのための玄関であると同時に、お寺に生活する者の出入り口でもありました。庫裡でご法事がある日、学校から帰ったら檀家の人たちが玄関を出入りして、「ただいまーっ。」というのともたまたまわられる中をこっそりとお上がって



いく玄関。その玄関近くに韋駄天さんは祀られているのです。あるいは、庫裡の台所(これもご法事があれば檀家の人たちに占拠されてしまうのですが)、普段食事をする間近に韋駄天さんは祀られるのです。そんな身近なほとけさんだから、韋駄天さんと「さん」づけで呼んでいたのだと思います。

京都あたりの禅寺の庫裡は、玄関に隣接して典座といわれる

台所があり、大きなかまどに大きな釜が掛けられています。当然ながら昔は薪での煮炊きでしたから、庫裡の中は煤けて黒光りしています。そんな煤の間近に祀られている韋駄天さんも、だいたいが黒く煤けているものです。

新しい庫裡で薪を使うことはありませんから、今度招来する韋駄天さんが煤で黒くなることはないでしょう。せいぜい毎朝の勤行の時のお線香の煙で、飴色になるぐらいかと思っています。

お寺の子どもに限らず、韋駄天といえば、韋駄天走りと言われるように、足の速いことで有名です。広島県の世羅高校は、駅伝の強豪校として有名ですが、そのトレーニングコースの山道の起点にある臨済宗修禅院の境内には韋駄天さんが祀られ、日々陸上競技部の練習を見守っているそうです。

そんな身近な韋駄天さんです

が、如来、菩薩、明王、天の四つに区分される広い意味での「仏」の中の「天部」に属して、帝釈天、毘沙門天、大黒天などが同じ仲間です。この「天部」の仏さんたちは、インド古来の神々が仏教に取り入れられて、仏教の教えを守る護法尊や福德尊になったと言われるいます。特に韋駄天さんは、伽藍を守る護法尊として祀られることが多く、中国では山門や本堂前に祀られているのがよく見られます。

□□□武將の姿

その姿は、甲冑を身につけ、胸の前で合掌した手に剣を持つつか、宝棒を横にささげる像が特徴です。

五世紀の中国に、韋叡(いえい)という将軍がおり、慈愛



をもつて人々を治め、朝廷にあっては常に穏やかで慎み深い人柄で世間の賞賛を受けたと言われます。また、老いてからも公務の合間に子どもたちに学問を教え、官で得た俸禄はすべて親類や友人に与えていたため、家に財産はなかったと伝えられる徳の高い将軍だったそうです。

韋叡が亡くなったのちも、道教の中で韋將軍として信仰を集めておりました。この韋將軍信仰と仏教の韋駄天とが習合したため、韋駄天さんは唐風の甲冑



違ったに  
違いあり  
ません。  
大切な  
仏舎利を

をまとった武将の姿の像になったのです。  
日本で見られる韋駄天さんの像は、前述のように、合掌した手に剣や宝棒を横にささげますが、もし剣を地面に突き立てた姿の像を見たら、それは道教の韋將軍の影響が強いものだと思います。間違いありません。

□□□足が速いと言われる由縁

俗伝では、お釈迦様の遺骨である仏舎利を、捷疾鬼(しょうしつき)という鬼が盗んだことがあったそうです。お釈迦様亡き後、その仏舎利に対する畏敬・尊崇の念はそのころから強かったと思われまます。名前の「捷」も「疾」もはやいという意味ですから、さぞ逃げ足が速



駄天さんは足が速いほどけさんとして名を馳せたのでした。

取り戻すべく捷疾鬼を追いかけたのが韋駄天さんでした。そして、逃げ足の速い捷疾鬼を捕まえて、無事に仏舎利を取り戻したのでした。そこで、足の速い捷疾鬼に追いつけるほど韋

□□□ご馳走と韋駄天さん

また、足が速いということ、韋駄天さんは、お釈迦様の為に方々駆け回って食べ物を集めたと伝えられています。

そこで、人の為にあちこち駆け回って、食事の材料を集めたり、水を汲みに行ったり、薪を集めてきたりすることを「馳走」といいますが、馬や車を駆って急ぐ「馳」には、「思いを馳せる。」という言葉の思いがあるように、相手のことを思い

やる意味もあります。ですから、「馳走」には、相手のことを思ってあちこち駆け回るという思いやりの行為のことも表現しています。



その馳走によってあつらえられた食事そのものを「ごちそう」と言うようになり、私のような者のことを思ってくださって食事を用意してくれたことに対しての感謝の気持ちを表す言葉として、「ごちそうさま」が生まれたと言われます。韋駄天さんの姿の特徴の一つに、少し前傾姿勢で、片足を半歩前に出しているというのがあげられます。この姿には、すぐにでも駆け出して、食べ物を調

達してきてやろうと気持ちが表示  
 されていて、韋駄天さんにお参り  
 していただければ、どんな貧しいお寺  
 に入寺しても食べ物には困らな  
 いんだぞと、修行道場の先輩が  
 教えてくれたことを思い出しま  
 す。今思えば、貧しいお寺に  
 入っても、自らが韋駄天となっ  
 て、自らの足を使って托鉢をす  
 れば食べ物には困らないという  
 覚悟を持ってという戒めだったの  
 かもしれません。

□□□いだてんふぎん 韋駄天諷經

韋駄天さんへのお参りは、本  
 堂での朝の勤行に続いて行われ  
 ます。そのお参りで気をつけな  
 ければならないのは、とにかく  
 読經もご回向も早くお読みする  
 こと。足の速い韋駄天さんへ  
 お参りも、早く読經することが  
 なによりふさわしいのだと教え

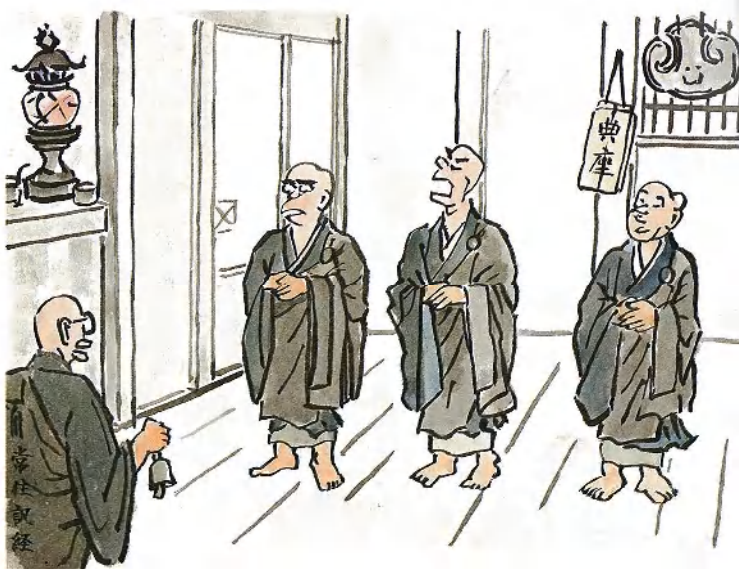


振鈴（持鈴とも言つ）

られて、早口言  
 葉なんていう生  
 易しいものでは

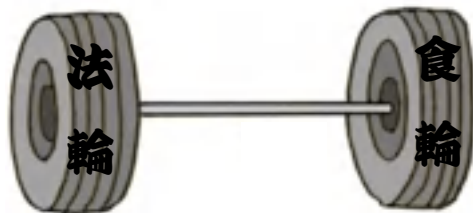
ないスピードで振鈴を振り続け  
 てお読みするのでした。

ご回向に、「山門鎮静、厨庫  
あんねい、食輪じきりんと法輪ふたと両つながら  
 俱ともに運転えんにゆうし、世事じと仏事ぶつじと一いつに  
 等しく円融えんにゆうならんことを。」  
 と、まずは山門内の無事と庫裡  
 の安泰願います。そして、食に



韋駄天諷經（「雲水日記」より）

代表される経済的  
 なこと、法という  
 仏教の教え、この  
 二つの聖俗を車の  
 両輪にたとえ、片  
 方だけよく回って  
 もまっすぐ進まな  
 いように、両方が  
 同じように回って  
 正しく前に進んで  
 いけますようにと願いを込めま  
 す。同時に、経済的なことばか  
 りに気をとられていないか、逆  
 に寺にこもって坐禅ばかりなん  
 ていう偏った生活をしていない  
 か、自らの両輪の円滑な回り具  
 合を顧みないといけないとの戒  
 めでもあると思います。



「越後の良寛さんに、  
 焚くほどは

風がもてくる

落ち葉かな」

という有名な句があります。  
 良寛さんが住んでいた五合庵  
 に、お風呂があったかどうか定  
 かではありませんが、それでも



汚れた体を拭くためのお湯でも沸かそうとしたのでしようか。たきぎや焚きつけの落ち葉を集めようと外に出ると、吹き溜まりに落ち葉が集まっています。こりやちようどお湯を沸かすぐらいの落ち葉があるわい、と思っただけでしょう。

これが私たちだったらどうでしょう。吹き溜まりの落ち葉を見てしめしめ樂ができるな。ほかにも吹き溜まりには落ち葉が集まっているはずだから、今のうちにいっぱい集めておこうと、家に戻って袋をたくさん用意して山に入っていく。案内の定、山のあちこちの吹き溜まりに落ち葉がたくさんあるし、風で落ちた枯れ枝もたくさん拾うことができそうです。さあ家に帰ったら、小さな庵ですから、そんなにたくさん枯れ枝や落ち葉をしまっておく場所があり

ません。ということ、庵の外側に雨除けの屋根をかけて、物置を作らなければならなくなりました。

その頃、良寛さんならどうでしょう。すでに落ち葉で沸かしたお湯で体を拭いて、あー気持いいわい、さてそろそろ坐禅でもするかと思ふ頃でしょうか、それともすでに坐禅を終えて寝る支度でもしているのでしょうか。

一方、大量の枯れ枝や落ち葉を拾った方は、おかげで大仕事をしなればならなくなり、ようやく片づけも終わりました。が、疲れたのでお湯を沸かすのは明日にして、今日は坐禅もせずに寝ることにしよう、食輪だけで終わってしまうのでした。

「焚くほどは…」と思った良寛さんは、落ち葉を集めてお湯を沸かすという食輪と、坐禅という法輪と、両輪を円滑に回すことができたのでした。

## おまめ

□□□はやり病いから救済

捷疾鬼の「疾」には、早いという意味だけでなく、やまいや病気の意味もあり、捷疾は、はやり病い、つまりペストやコレラ、インフルエンザなどはやり病いを象徴しているとされます。それを韋駄天さんが追いかけて取り押さえたので、韋駄天さんははやり病いから救われるほどのけさんとしての信仰も集めました。

韋駄天さんが庫裡などに祀られるのは、食べ物を通して感染していくはやり病いを防ぐ意味もあるのかもしれない。

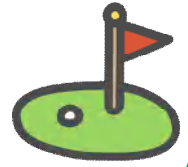
足が速くなりたい方、食べ物に困りたくない方、病気になりにくい方など、どうぞお寺にお越しの節には、「韋駄天さん」にお参りください。

# 第44回花園会ゴルフ大会

5月25日 於：市原ゴルフクラブ

	お名前	グロス	ハンディ	ネット
優勝	松丸 正憲	93	20.4	72.6
準優勝	矢野 剛三	97	22.8	74.2
3位	佐藤 征吾	98	22.8	75.2
4位	宮田 宗格	102	26.4	75.6
5位	柴田 勝美	90	9.6	80.4

第四十四回の大会は、五月二十五日に、市原ゴルフクラブで開催されました。新ペリア方式で熱戦を繰り広げ、成績は表の通りです。いつも通り、参加費と罰金の中から、日本赤十字社に災害義援金を贈らせていただきました。



## 墓地の空きがあります。

墓地を移転される方がいらして、空きができました。ご希望の方は、お寺までお申し出ください。

- 【広さ】 五尺(一五〇cm)×三尺(九〇cm)
- 【区画数】 二区画
- 【永代使用料】 一〇〇万円
- 【墓地管理費】 年三千元
- 【花園会費】 年一万円

(どうしても広い区画をご希望の方は、お寺までご相談ください。)

## 参加者募集

3巡目

第5回

# 四国あるき遍路の旅

約20名

第五回は、三十六番と三十七番の二カ所の札所だけです。移動の多さからすれば、路線バスの旅あり、巡航船の船旅あり、ローカル線の旅あり、峠越えあり・・・となります。

【日程】十一月十六日(金)～十八日(日)

【旅程】 飛行機にて高知へ。土佐市内まで路線バスで移動して、そこから歩いて三十六番へ。豪華遍路宿泊。二日目は、午前中約一時間の船旅。午後そえみみず遍路道で峠越えをして三十七番の宿坊泊。三日目、三十八番の向かう遍路道をひたすら歩いて、帰路に就く。

【参加費】五万円前後  
(花園会費割引あります。)

【申込】 お電話・メールなどで、お寺までお申込下さい。  
その他、何なりとお問合せください。

## 平成29年度花園会会計報告

平成29年4月1日～平成30年3月31日

	科目	金額	備考
歳入	前年度繰越金	173,227	
	お寺よりの活動費	1,460,000	
	行事収入	667,500	土曜会・禅童会・新年会・写経会などの参加費を含む
	雑収入	10,005	東京教区7部からの法話会助成金・預金決済利息
	歳入合計	¥2,310,732	
歳出	宗派賦課金	173,500	本山納付花園会費、災害見舞金ほか
	行事費	1,069,893	土曜会・禅童会・新年会・写経会など
	事務費	363,186	事務経費、行事案内状の郵送料など
	会議費	164,414	月例役員会
	研修費	172,922	役員研修
	慶弔費	57,088	圓福寺上棟式お供え物(樽酒)及び故池田治子様お香典
	寄付金	0	
	雑費	0	
歳出合計	¥2,001,003		
次年度繰越金	¥309,729	内訳：預金残高 ¥4,064 現金残額 ¥305,665	

その四

# 僧堂で何してる？ ——二二修行道場の生活

## 粥座

朝は目玉の浮ぶ粥

### 雲版 (うんぱん)

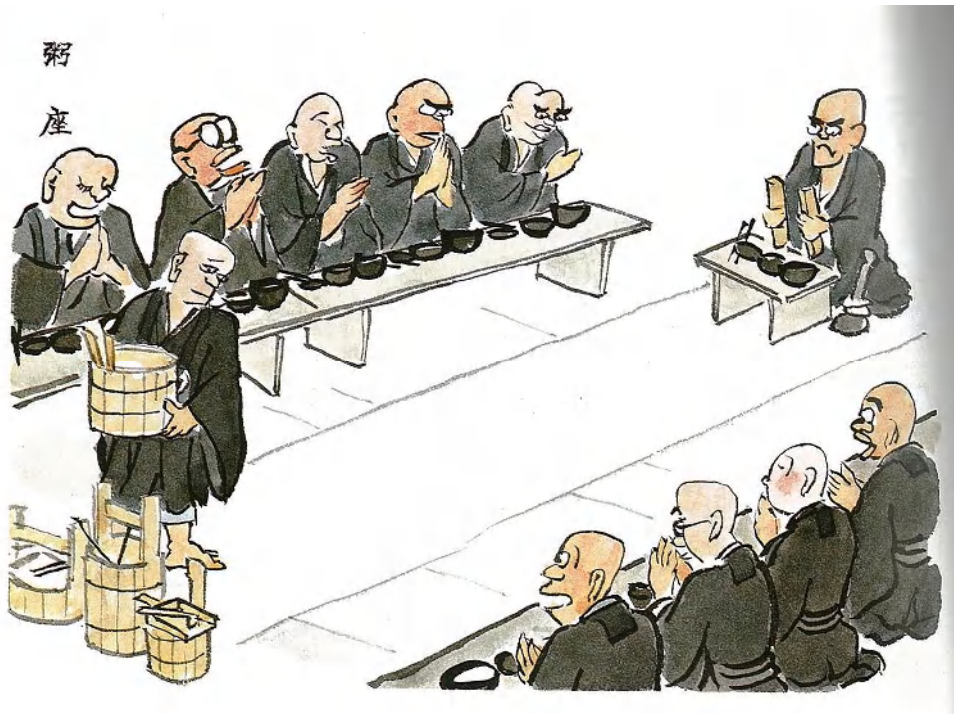


禅寺の庫裡に掛けられ、食事の時間の合図などに打ち鳴らされる鉄や青銅製の雲形の板。

### 持鉢 (じはつ)



禅宗で使われる食器。五枚組になっており、きれいに重ねられる。食事のつど、少量のお湯をいっただいて洗い、そのお湯も飲み干して、布巾で拭いて片づける。



飯台看の打ち鳴らす雲版を合図に、大衆は直ぐに先導されて食堂に向かう。玄関と本堂の間で両側畳敷、中央一間半くらいの板の間だ。着座すると食事のためのいくつものお経や偈が唱えられ、各自持鉢を開いて飯台看から如法に食物を受ける。生飯と称する七粒ほどの飯粒をつまみ出して餓鬼に供え、看頭の柝木一声でいっせいに合掌してはじめて箸をとる。

通称「天井粥」、目玉もヒゲヅラも映る薄い粥と、異臭を放つ古沢庵だけがすべての、涙ぐましいまでに慎ましい粗食。そして「三黙堂」の名の示すとおり、粥をすすする音も、漬物を噛む音も、箸を置く音もいっさいが封じられたところ。やがてこうした厳肅な雰囲気の中で食事が終わると、注がれた一杯の茶で洗鉢し、フキンで拭って持鉢をしまいこむ。この一糸乱れぬ厳然とした食事作法はまた、仏道修行の一つであり、この仏飯が一日の求道の糧である。こうした飯台座においてこそ、最低の生活に最高の感謝という僧堂生活の真髄がうかがえよう。



# 日天掃除

屋外掃除

雲水の掃除の躰の綿密さは徹底したものだ。朝の独参がすめば、堂内・常住とも待ち構えていたように屋外掃除にとりかかる。雨降りでないかぎりこの日天掃除は絶対欠かさぬ。これは百丈和尚の「一日作さざれば一日食らわず」を体得しようとする一つの作務を行ずるため、誰の命令があるでもなく、報酬を期待するのではない。各自黙々と正念を守りつつ落葉を掃き草を引く。決して世間の単なる労働ではない。身心の凝りを解くとともに、「動」の中で生きた自己を捉える坐禅の動的表現だ。

中峰和尚「座右銘」には「常に苕帚を携えて堂舎の塵を払え」とあり、神秀上座は「時に勤めて払拭せよ、塵埃をして惹かしむるなかれ」といって、自己内心の無明煩惱の掃除をせよと誠めている。庭を掃いている趙州に、ある僧が「和尚は天下の大知識というのにどうして塵があるのか」と問うた話、清掃中、竹に当たった小石の音で悟りを開いた香嚴和尚の話などから、禅機は日常どこにあるかも知れないことが思われる。



# 作務

労働作業

「一日作さざれば一日食らわず」の勤労精神は僧堂生活のバックボーンだ。禅堂制度の元祖、百丈禅師は八十歳すぎても毎朝の畑仕事を欠かされぬため、弟子が鋤をかくした。老師は徒然として自室に坐し食事をされぬ。弟子がいぶかって促すとこの答えであったという。以来、僧堂では、労働は「動」の修行として「静」の坐禅同様に尊重されてきた。いわゆる「動中の工夫」だ。「働かざる者食うべからず」というケチな強制ではない。自律的な自主精神が値打だ。大は山作務から小は草取り、拭き掃除まで、古顔も新米も一様に、黙々と労働の汗を流す。作務中の私語、閑談は思いもよらず、人の嫌う仕事、気のつかぬ仕事、あと始末などを進んでやるから、自然に作業の能率も上がるというもの。

「一日不作一日不食」の鉄則によって、休息日以外は必ず何らかの作務が課せられ、托鉢、講座日の午後五時、六時ごろまで、または終日汗みどろになって働く場合も多い。



## 再建工事の様子と7月の工程表

### 本堂の柱が建ち始めました。

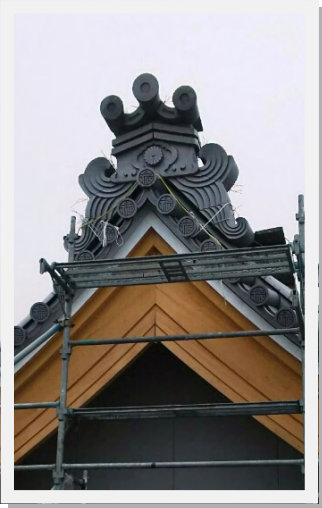


鉄骨作りとはいえ、本堂にはヒノキの柱がたくさん建てられます。太さ7寸、約21cmの見事な柱が、頑丈な土台の上に乗せられ、鉄骨の部材にがっちり止められていきます。

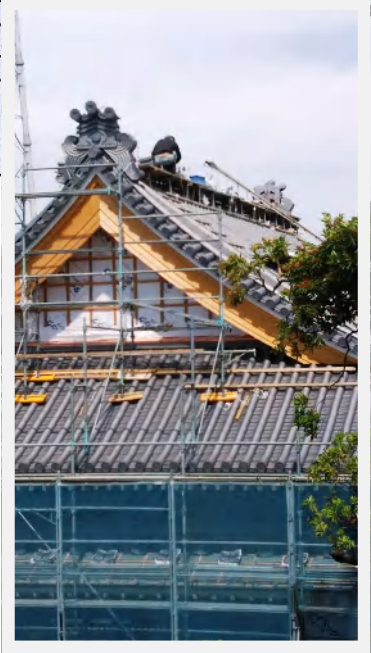
東濃ヒノキの七寸柱が  
据え付けられる



ヒノキの柱の間に見える鉄骨も、ヒノキで覆われて、出来上がったときには木造の本堂と見まごうはずです。かつての本堂にはこんなに太い柱が使われておらず、頼りない感じでしたが、太い柱が建ち始めて、本堂も本来の重厚さを感じていただけたらと思います。



30年 7月度		工事名 宗教法人 圓福寺 本堂 <sup>○</sup> 院・庫裡 新築工事																											監督職員		監理事務所		現場代理人		作成者		No.	
月間工程表		請負者名 松浦建設株式会社																		作成日：平成30年6月21日					陶野野合剛設計		茶谷憲一		茶谷憲一									
施工部位		7月																												工期								
月		日																												自								
日		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	平成29年 7月 1日					
曜		日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	平成30年 8月31日					
																														紀								
																														事								
仮設工事																														正面・裏・デッキ上足場解体								
木工事		内部造作							内部造作							内部造作							内部造作															
屋根瓦工事		瓦葺き							瓦葺き							瓦葺き																						
舗工事		シーリング・樋取付							シーリング・樋取付																													
外壁工事		サイディング・スパンドレル							サイディング・スパンドレル							サイディング・スパンドレル						サイディング・スパンドレル																
左官工事		(本堂) 外壁凍喰蓋・雀口																																				
内装工事		(書院) 1階 壁・天井																																				
塗装工事									塗木木口・ジョリパット吹付																													
外構工事																						植込																
電気設備工事		配線																																				
給排水設備工事		配管																																				
施工図																																						
施工計画書																																						
主要行事		定例打合																																				



鬼瓦は、地上で仮組をして微調整してから屋根にあげます。地上で見ると巨大です。

本堂内部の鉄骨も、ヒノキで覆われて太い柱に見えます。



平成三十年上半期  
お寺と和尚の記録抄

1月	1日	新春ご祈禱
	1日	修正会
	1日	平林寺老大師相見
	8日	スマートコミュニティ、「写経会」
	11日	幼稚園年中組、市原たんけん隊
	15日	幼稚園年中組、市原たんけん隊
	17日	加藍再建工事、鉄骨・木材検査 於小松
	17日	幼稚園年長組、市原たんけん隊
	19日	幼稚園年長組、市原たんけん隊
	21日	花園会新年会
	22日	幼稚園年少組、市原たんけん隊
	25日	加藍再建工事打ち合わせ
	27日	スマートコミュニティ、「写経会」
	27日	幼稚園バザー「くすのきまつり」
2月	3日	幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」
	4日	写経会
	6日	幼稚園、涅槃会
	8日	佐原清實院先住職一周忌
	8日	スマートコミュニティ、「写経会」
	9日	幼稚園、職員研修
	9日	幼稚園、会計監査
	13日	幼稚園、会計監査
	14日	加藍再建工事打ち合わせ
	15日	スマートコミュニティ、「写経会」
	23日	四国あるき遍路の旅(三巡目第4回)

3月	1日	加藍再建工事打ち合わせ
	3日	幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」
	4日	写経会
	11日	春彼岸法要
	13日	上棟式
	17日	幼稚園、卒園式
	19日	加藍再建工事打ち合わせ
	23日	土曜会「彼岸法話会」
	23日	布教師 足立 宣了師
	23日	ポークスカウト合宿 於耕雲寺
	24日	取手長禅寺、春彼岸法要
	28日	平林寺老大師相見
	29日	スマートコミュニティ、「写経会」
4月	5日	加藍再建工事打ち合わせ
	8日	写経会
	10日	幼稚園、入園式
	12日	兵庫仏心寺住職、通夜・津送
	18日	取手長禅寺、観音まつり
	19日	スマートコミュニティ、「写経会」
	20日	加藍再建工事打ち合わせ
	21日	幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」
	26日	スマートコミュニティ、「写経会」

5月	8日	幼稚園、「花まつり」
	9日	加藍再建工事打ち合わせ
	10日	スマートコミュニティ、「写経会」
	11日	幼稚園年長組、市原たんけん隊
	13日	写経会
	14日	幼稚園年中組、市原たんけん隊
	23日	加藍再建工事打ち合わせ
	24日	幼稚園年少組、市原たんけん隊
	25日	第四十四回花園会ゴルフ大会
	26日	土曜会「市原ボランティア」
6月	3日	幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」
	31日	スマートコミュニティ、「写経会」
	7日	幼稚園、決算監査
	8日	加藍再建工事打ち合わせ
	16日	土曜会、仏教シアター「解夏」
	22日	加藍再建工事打ち合わせ
	28日	スマートコミュニティ、「写経会」
	30日	幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」
7月	1日	写経会
	6日	加藍再建工事打ち合わせ
	8日	山門施餓鬼会
	10日	七月盆棚経

## 当たり前なんてない！

(5月の「園だより」から)

時ならぬ暑さの中、新学期のQ園隊には、新入園の親子隊員も含めて、たくさんのお手伝いをいただき、ありがとうございます。

五月のQ園隊は、「里芋」の植え付けと、ジャガイモ畑の草取り、落ち葉集め、もみじの下の草取りをしていただきました。落ち葉集めをしていただいた森の道に咲いていた黄色い花に気づいたでしょうか。あれ



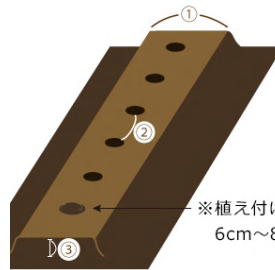
が、希少植物のキンランなど・・・。当たり前に咲いていると、希

少植物だなんてわかりませんよね。

当たり前と言えば、ジャガイモや里芋も植えただけでは、当たり前に収穫できません。

草取りをしたり、土寄せをしたり、肥料をあげたりという作業があつてようやく収穫を迎えるのです。

草取りをしたり、土寄せをしたりという作業をすることで、ジャガイモや里芋に感謝する気持ちも少しも沸いたらうれしいなと思っています。その気持ちも、毎日毎日当たり前に目の前に並ぶ食事にも、食事を作ってくれた人にも向いてくれたらいいなと願っています。

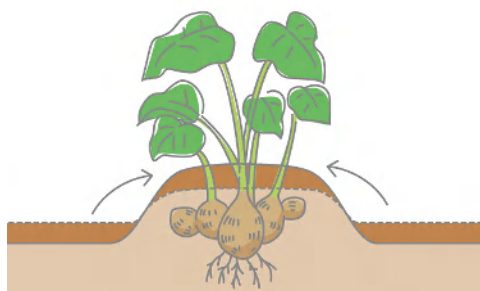


- ① 畝幅：80～100cm程度
- ② 株間：40～50cm程度
- ③ 高さ：20～30cm程度

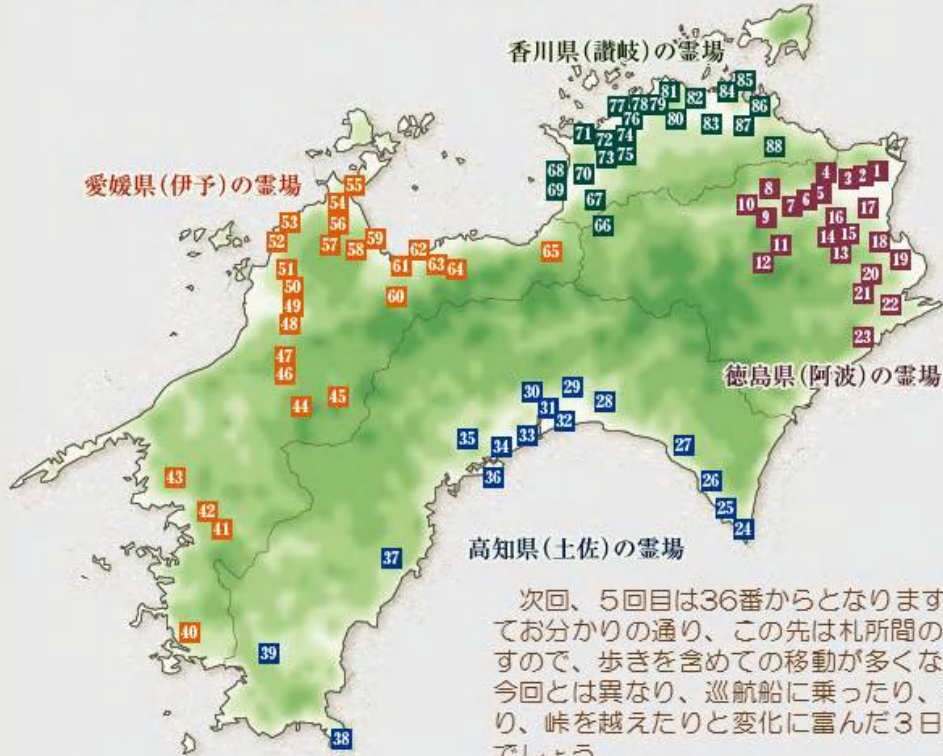
※植え付ける際は種芋の芽を上にして6cm～8cmの深さに植えていきます。

里芋の植え付けをするにあたって、何センチ掘ったらいいですかと聞かれました。たぶん野菜栽培のハウツウ本には、何センチ掘るとか書いてあるのかもしれないませんが、種芋だってすべて同じ大きさではありません。大きさが違って当たり前なのに、同じ深さに植え付けるなんて、個性が違う子どもを同じやり方で育てるのと同じではありませんか。

幼稚園に通うようになったから当たり前でしょ！なんて声を掛けていませんか？でも、当たり前なんてないんですよ。



次回の予定 2018/11/16~02/18



次回、5回目は36番からとなりますが、地図を見てお分りの通り、この先は札所間の距離がありますので、歩きを含めての移動が多くなると思います。今回とは異なり、巡航船に乗ったり、古道を歩いたり、峠を越えたりと変化に富んだ3日間になることでしょう。

### あとがき

歩き遍路は、雨だと大変です。今回も、3日目にはいつ雨が降ってくるか気にしながら歩きました。

でも、雨もいいことがあって、最近の雨つづきで外仕事ができず、おかげでこの写真集を一気に仕上げることができました。

お寺の上棟式の導師を務めて下さった平林寺の江楓室老大師と話している中で、20年以上歩き遍路をしていることに驚かれましたが、そんなことを思い出して、10ページに一巡目の写真を載せて

みました。このときは、秋でしたし、雨模様だったようで、今回とは雰囲気全然違います。もちろん、みんな20歳以上若く、歩いて感じたことも違うだろうと思います。

季節、天候、年齢など、どれも人間の力でどうなるものでもありませんから、受け入れるしかありません。あるき遍路をして、季節や天候を受け入れることはできても、若いころはとか、昔はとか、なかなか年齢を受け入れられずにいます。

まだまだ、あるきが足りないようです。

住職手作りのわらじです。4回目でこんな感じになります。さて、何回目まで使えるでしょうか？



Title : 3日目の歩行記録

Date : 2018/2/25



3日目の歩行記録

点数 : 1252 距離 : 21.4km

## 比べてみれば・・・

—— 1巡目第5回（平成15年11月）の写真から



誌面が余ったので、昔の写真を引っ張り出してみました。この時は雨が多かったようです。【左】竹林寺の石段です。【右上】禪師峰寺から土佐湾をバックに撮った写真です。真ん中の小さいのは住職の長男。【右下】合羽姿の住職の右後ろに新川大師堂が小さく映っています。15年も前ですねえ。

Title : 仁淀川越え、35番清滝寺

Date : 2018/2/25

新川大師堂

34番種間寺から35番清滝寺まで、札所間の距離が今回最長でした。ビニールハウスが多く建てられている集落を抜けて、まず目指すのが仁淀川の堤防。点在していた家々が密集し始めると、仁淀川が近いことを意味します。かつては、大河仁淀川に橋などかかっていたはずはなく、密集する集落は仁淀川の渡し場の名残に違いありません。

集落の先、仁淀川の堤防上に小さなお堂が見えると、それは新川大師堂です。渡し場のほとりに建つ大師堂は、渡しの

安全と、仁淀川を渡る途中で不運にも亡くなられた旅人の慰霊のために建てられたのだと思います。お堂の裏手に回ると、たくさんの供養塔がまとめられていたことから想像に難くありません。

川に向かって右手の山の中腹に、目指す清滝寺の瓦屋根を見ることができます。今日の天気予報は、2時過ぎぐらいから雨、次第に天気のことになりだして、先を急ぐことにしました。

清滝寺はこのあたり



「右」清滝寺の本堂前で、「雨降る前に！」と騒ぎながら記念撮影。「左」今回最長の石段（清滝寺）





Title : 34番種間寺

Date : 2018/2/25



**遍路宿「高知屋」にて**

2日目は予定通り、早めに遍路宿に荷を解くことができました。お疲れのことと思ひ、早めのチェックインをしたら、お風呂に入ってゆっくりお休みいただけるかと思ったのです。ところが、渡船に着いた長浜の集落を歩いているときに、造り酒屋が目に入ったようで、宿に荷物を置くや否や、ちょっと町を散策してみると聞こえのいいことを言って、夜の飲み物の買い出しに何人か出かけたようです。その名も「酔鯨」、鯨も酔うほどの名酒のようですが、3日目の歩きに影響はなかったでしょうか。



「上右」種間寺への遍路道の途中の石仏。「上左」道いっばいに広がって歩いて大丈夫なほど、のどかな田んぼ道。「下右」種間寺の入り口でお大師さんとパチリ。「下左」種間寺は安産祈願のお寺で親しまれ、無事安産したら底を抜いた柄杓を納めるのだそうです。千葉に帰ってから、任職の初孫もおかげさまで、無事出産しました。



Title : 33番雪蹊寺

Date : 2018/2/24



**唯一の海路？**

雪蹊寺に向かう遍路道の途中、浦戸湾に渡船があります。浦戸大橋がかかるまでは、この渡船が長浜にわたる手段だったのでしょ

う。現在も県営で、無料で乗ることができます。四万十川の渡し船が休業中ですから、四国遍路で唯一の海路だと思います。とはいえ、10分も乗船しませんが・・・。



吉村さんは、今回の遍路で無事結願を迎えました。行く先々での「〇〇川」歌で、いつも和ませてくれた、圓福寺のナベサダさん、結願おめでとうございます。

**臨濟宗妙心寺派33番雪蹊寺**

33番雪蹊寺は、四国八十八カ所の札所の中で、二つある臨濟宗妙心寺派のお寺の一つです。それも珍しいですが、本堂に下げられていた鰐口（わにぐち）という鳴らし物が木製だったのも珍しく思いました。

境内には、文旦売りの売店が出ていて、前に来た時もそうだったと思い出しました。

今日の宿泊も、前回同様真向いの「高知屋」さんです。こちらは建て替えられたようで、すっかりきれいになりました。

千葉に帰ってから、高知屋さんから荷物が届いたので、さては、だれか忘れ物をしたかなと思ったら、高知屋さんからお接待の文旦が届けられたのでした。ごちそうさまでした。



Title : 32番禪師峰寺

Date : 2018/2/24



【左】 禪師峰寺への  
廻路道の途中で。  
【右】 禪師峰寺の境  
内から土佐湾を望む。  
向こうに見える岬の  
あたりが桂浜。  
【下】 禪師峰寺の境  
内で。横一列に並ん  
だ集合写真は珍しい。

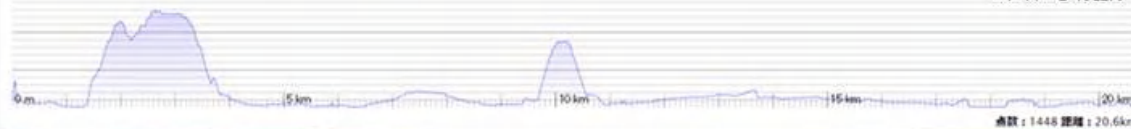


### みねんじ

32番は禪師峰寺で、読み方は「ぜんじぶ  
じ」ですが、地元の人々は「みねんじ」と呼び、  
また海上安全を祈願する「船魂の観音さん」  
として有名だそうです。



2日目の歩行記録



Title : 31番竹林寺

Date : 2018/2/24



**へんろ道、植物園へ**

昨日、宿に着くなり、「明日の朝食は食堂の席に限りがありますから・・・。」と驚かされたので、食堂が開く6時半前に行くと、すでに数人が食堂の入り口で待っていました。でも、土曜日だしと高をくくっていたら、食堂は満員、中にはロビーで食事をとる人もいました。

宿から31番竹林寺まではそんなに遠くないからと、出発は8時。高知とはいえ、さすがに冷えている朝の空気の中、いざ出発です。

しばらく平地を歩いて、よくあるパターンですが、民家脇からいきなりの登り。集落の共同墓地脇の坂を行くのですが、この道は3

巡目ではじめてのルート。石畳が敷かれているということは、これが昔からの廻路道にちがいません。すると、左手に遊歩道が現れ、なんと牧野富太郎の植物園の中に廻路道は組み入れられてしまいます。植物園の遊歩道の案内板に惑わされて、結局植物園内を散策したような結果になり、最後は植物園のトイレ裏から竹林寺の山門下にたどり着いたのです。

高知の観光名所にもなっている竹林寺ですが、さすがに2月の寒い中、観光客も団体廻路もおらず、静寂の中をお参りすることができました。



**廻路装束デビュー**

田中さんがはじめて廻路装束の「白衣（はくえ）」を身につけたそうです。背中に「南無大師遍照金剛」は昔ながらですが、その上に金銀彩色のお大師さんのお姿がプリントされています。時代とともに、付加価値をつけているのでしょう。

田中さん曰く、「前から見たら、板前さんしか見えないよねえ。」うへん、言われてみれば確かに・・・。

Title : 30番善楽寺

Date : 2018/2/23



### 田中のへんろ道

後ろの森が、29番国分寺の境内林です。田んぼの中の道は、車を気にせず歩けるので助かります。

### 意気軒高な歩き遍路

30番善楽寺に着くころにはにも傾き、納経所もそろそろ店じまいの準備です。

そろそろ、早めに宿に入りたいかと思ひ、タクシー分乗で行きましようかと提案したのに、「歩く!」と

は、年寄りの意地っ張りなのか、意気軒高なのか? 初日にも関わらず、ここまで26kmほど歩いているし、宿に着くころには夕闇も迫ってくるのになあ……。でもまあ、歩くとしますか。



Title : 29番国分寺

Date : 2018/2/23



明るくなった国分寺

前回ごめん駅から歴史民俗資料館まで乗ったタクシーの運転手さんの親戚が、国分寺の総代さんをしていて、台風のと境内の倒木の片づけが大変だったという話を聞かされました。

本堂への参道を進むと、確かに本堂前が明るいのです。以前は、大きな木があって、さすが国分寺だけあって、少し薄暗く、厳肅な空気が漂っていたのですが、すっかり明るくなって、開放感にあふれた印象でした。

素朴で威圧感を感じさせない本堂は、明治37年に国の特別保護建造物に指定されるほど建物ですが、となりの大師堂は長宗我部家や山内家といった武将が建立した趣で、高い基壇の上に建ち、いかにも豪壮な建物で、本堂とは好対照です。

山門を出て、廻路道をまっすぐ進むと、いきなり田んぼの中の道となりました。

旅の記録

期日	曜日	コ	ー	ス	予	定	食事・宿日	
1	2月23日	7:25発 羽田空港集合	JAL491	8:55着	高知龍馬空港	9:15発	一歩一歩 10:45着 昼食	【歩いた距離】約29.7km 昼食：コンビニで各自
		11:45発	一歩一歩	12:45~13:00	14:00着	28番大日寺	14:30発	夕食：たかす食堂（ホテル向かい）
		28番大日寺	約9.2km	松本大師堂にて休憩	29番国分寺	約4.6km	16:45発	17:45着
2	2月24日	8:00発	一歩一歩	9:00着	31番竹林寺	9:30発	一歩一歩 11:00着	【歩いた距離】約20.6km 昼食：「ごぼんや」 088-865-4377
		11:30発	12:45発	一歩一歩	14:15着	32番禪師峰寺	15:10発	《葛籠》
		32番禪師峰寺	【お昼ご飯】各々	約8.0km	15:45着	33番雪隠寺	16:00発	高知市長兵658 0888-41-3074
3	2月25日	7:30発	一歩一歩	8:55着	34番種間寺	9:30発	一歩一歩 10:15着	【歩いた距離】約21.4km
		10:30発	一歩一歩	11:00着	11:45着	35番清滝寺	13:05着	昼食：「黒瀬うどん」 088-852-3729
		13:40発	一歩一歩	14:35着	14:52発	18:10発	ANA570	19:25着
		15:55発	（空リムジンプス）	18:20着	高知龍馬空港			【歩いた距離】約71.7km

Title : 28番大日寺へ

Date : 2018/2/23



第3回の予定で、28番大日寺までお参りをするつもりでしたが、歴史民俗資料館の「今を生きる禅文化」を観覧する都合で、大日寺のお参りは次回ということにしました。

そこで、第4回は28番大日寺からのお参りとなりました。千葉を早朝出発だったので、頭と体が歩き遍路モードに切り替わっていませんでした。確か集合写真も撮った記憶はあるのですが、写真が見当たりません。せめて、大日寺のイメージだけを左の絵で紹介します。各自思い出してください。

### 空港から歩いて行ける札所

歩き遍路とはいえ、どんな所へも歩きで行けばいいのですが、限られた時間ですので、毎回、空港からは空港連絡バスなどを利用して、歩き始めの場所まで移動するのが常です。八十八か所の札所中、この28番大日寺だけは空港から歩いて行ける距離のところにあります。そこで、空港ビルを出たところから歩きが始まりました。

空港から物部川の堤防に出て、川上に向かって歩きたいのですが、なにしろ風を遮るものがなにもないので、風があると歩くのにはつらい道ですが、幸い風も強くなく、空は晴れ渡っていました。さあ、春を感じながら、歩き始めることにしましょう。



28番はこのあたり

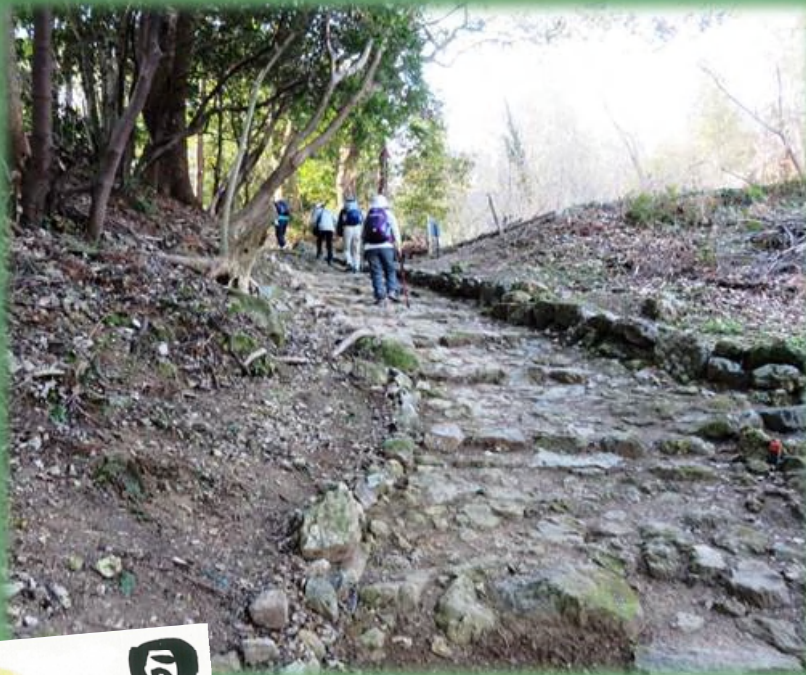


国分寺に向かう途中にあり、休憩の適所。安心して椅子に坐りながら、壊れていたらしく、後ろにひっくりかえってカメ状態になってしまいました。

### 松本大師堂

# 3 巡目 第4回

## 四国あるき 遍路の旅



3日目の朝  
31番竹林寺へのへんろ道にて

平成30年2月23日～25日  
臨濟宗妙心寺派 圓福寺